

司式 三田村雅子
奏楽 堀口 恵美

前奏 『聖母マリア』(F. リスト)

点火 山本 典子、大川 春音

招詞 主(ヤーウェ יהוה)は聖なる御腕の力を、国々の民の目にあらわにされた(ハサフ
הָשִׁיב [裸にする。露にする])。地の果てまで、すべての人が、わたしたちの神(エロヒム
אֱלֹהֵינוּ)の救い(イェシュアット הַיְשׁוּעָה [助け。勝利。繁栄。解放])を仰ぐ。(イザ 52:10)

讃美歌 247 『今こそ声あげ』

交読詩編 85 編 9-14

09 わたしは神が宣言なさるのを聞きます(シャーマ שָׁמָע [聞<= I will hear. I will
listen/85 編の重要キーワード])。主は平和を宣言されます/御自分の民に、主の慈しみに
生きる人々に/彼らが愚かなふるまいに戻らないように。

神の声、神のことは聴こう。しかしそれは律法的なことではなく、やがてメシアによって実現さ
れるシャロームの宣言のこと。シャローム=神の祝福を表わす総称、換言するなら「福音」。それを作
者は「聞きたい」「聞こう」としている。

9 節以降、やがて神の御子イエス・キリストによって実現する神の恩寵用語(名詞)が対句で羅列される。
これらの恩寵の対句により、やがて互いによりしっかりと御子イエスの十字架の上によって出会う(結び
あう、一致する)ことが預言的に語られている。

10 主を畏れる人に救い(イェシヤ הַיְשׁוּעָה)は近く/栄光(カーポド קְבוֹד)はわたしたちの地
にとどまるでしょう。

11 慈しみ(ヘセド חֶסֶד [恵み])とまこと(エメット אֱמוּנָה)は出会い/正義(ツェデק צְדָקָה [義])と
平和(シャローム שְׁלוֹמִים)は口づけし

12 まことは地から萌えいで/正義は天から注がれます。

13 主は必ず良いものをお与えになり(ラツァー הַצָּדִיק [恵みを施す])/わたしたちの地は実
りをもたらします。

14 正義は御前を行き/主の進まれる道を備えます。

- (1) 「救い」(イェシヤ) הַיְשׁוּעָה と「栄光」(カーポド) קְבוֹד
- (2) 「恵み」(ヘセド) חֶסֶד と「まこと」(エメット) אֱמוּנָה
- (3) 「義」(ツェデク) צְדָקָה と「平和」(シャローム) שְׁלוֹמִים

これらは人間に対する神の恩寵による拘わりの言葉。人間の努力によって実現できるものではな
い。神の一方的な恩寵(好意)の祝福。この恩寵だけが人を新しく変えていく力。

聖書① イザヤ書 9章 5節

(何故なら(キー כי) [祝福を受ける理由を告げる]) ひとりのみどりごが(イェレド) (יְלִיד) わた
したちのために生まれた(ヤラド יָלַד [預言的完了形ユラッド יָלַד]⇒イエスの誕生で実現した)。
ひとりの男の子が(ベーン) (בֵּן) わたしたちに与えられた。【この前半部分はメシアの
初穂により既に実現】

権威が(冠詞付) [ハニミスター] (הַמְשִׁיחַ) [主権⇒その名は]として四つの名前が記され
る)彼の肩にある。

その名は、「驚くべき指導者(ベレ・ヨエツ) יְהוֹנָתָן פְּלִיאָה [不思議な助言者]、力あ
る神(エル・ギボール) גִּבּוֹר אֱלֹהִים)、永遠の父(アヴァイア) אֲבִי עוֹלָם、平和の君(サ
ル・シャローム) שֶׁלוֹמִים שָׂר)と唱えられる。【後半部分はメシアの再臨を待つ】

聖書② マタイによる福音書 1章 18-25

◆イエス・キリストの誕生

18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約してい
たが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。19 夫
ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を
切ろうと決心した。20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの
子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったの
である。21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪

から救うからである。」22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われて
いたことが実現するためであった。

23 「見よ*、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエル*と呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

★見よ 《(ἰδοὺ/הִנֵּה hinneh) (鋭い言葉) “御覧なさい!”

★インマヌエル(אִמְנֻנִים) 私たちと共に神がいる”(Isa7.14, 8.8⇒Mat1.23, 28.20)

24 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、

25 男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名
付けた。

讃美歌 175 『わが心は』

説教 『恵みは突然に』

鮎川 健一

“メリークリスマス”、“クリスマスおめでとうございます” 今日この日、この時
に、心からそう思える人は、世界中でどのくらいいるのでしょうか? それ
も救い主がこの世に来られたことを待ちに待って、喜んで人がどのく
らいいるのでしょうか?

2020年という年を思い起こしてみますと、厳しい寒さと共に新年を迎え
て、能登地方を中心とした大地震から始まり、その後も大きな出来事が続
きました。毎年12月になると、その年を表す漢字一文字が発表されます。
今年はおリンピックの年のためか「金」・「ゴールド」という文字が選ばれまし
た。中にはこれを“金・マネーではないか”という意見もありますけれども、
私個人的には、災害の『災』という文字が再び浮かびました。お正月早々
に、この文字が浮かんで過ぎてきた一年でした。世界的に地球規模に及
んで災害の多い年でした。このような様は、聖書を紐解く中で、様々に
見えてくるものです。

救い主イエス・キリストがこの世に来られた。そのことの以前に、人々
が神との関係を壊した罪のゆえにある、そのことは神の言葉を告げ知らせ
る預言者たちによって指摘されてきました。そして人々は“心から悔い改め
て神の真実の平和の道を歩むように”と諭されてきました。ユダヤの人々は周辺
大国の支配下に怯えながら、“一日も早く、この悲惨な毎日から解放されたい。救い
主が来るなら、今にでも”と願っていたものの、一向に変わらない。それどこ
ろか、人々は遠い国へ連れて行かれて大変な事に見舞われ、そして救い主
のことなど忘れかけていました。ユダヤの地はもう自分たちでは守ること
ができなくなった。人々は気力、体力を失われ、独裁的な力に潰されていま
した。歴史の中では、“バックス・ローマナ(ローマの平和)”と言われてきま
したけれども、平和であるのはローマ帝国だけであって、周辺国は奴隷と
なり、平和とは言えないものでした。今の世界も同じようであり、また私
達を取り囲む社会も、聖書の時代のユダヤと同じようでもあります。“スト
レス社会”と言われてかなりの時が経ちますけれども、“今もなお”の時代で
す。しかし、いつの間にかそれが当たり前のようになり、『ストレス』とい
う言葉さえ聞こえなくなっています。状況は酷くなるばかり、今年もその
中であって、次の年を迎えます。またストレスはよい事に対しても起こる
身体的精神的反応ですけれども、今宵、子供たちは良いストレスを感じな
がら眠りにつくかもしれません。中には楽しみや心配で眠れない子もいる
かもしれません。またこの時期、試験や就職などの準備で落ち着かない、
また、合格や採用通知を受けても、心や体に様々な症状が現れます。今ま
でに経験していないこと、想定外のことが我が身に起こる時に、心にも身

体にも圧迫を覚えます。受験、また就職、結婚、引っ越し。また、近年懸念されている自然災害に対する備え、そういったことであるような事前の準備をしていたとしても、ストレスというものを感じます。また独り身の人は、この時期は特に複雑な心境に追い詰められます。歌やドラマでも表現されていますけれども、マスメディアなどの情報がより心を追い詰めます。居心地の悪さを突き付けます。あたかも一人で居るのが悪いといわんばかりの状況です。良くも悪くもストレスというものは的確に対応するための準備として、危険から身を守る本能的な対処でもあります。でなければ、いつのまにかこのストレスに潰されて命さえ失われてしまいます。ストレスをしっかりと受け止め、新たな一歩を踏み出すことが大切にもなります。

今から2000年前のユダヤで、誰もが予期せぬ時に思わぬ所で救い主が誕生しました。諦め半分の日々、心のどこかで待ちに待ち焦がれながらも、その時が来た途端に心が落ち着かなくなる、ヨセフもマリアも例外ではありませんでした。自分たちが直接その事に関わるとなれば、想像だにしない複雑な思いが湧き起こったのではないのでしょうか。これこそ人類史上最大のストレスです。ヨセフとマリアは婚約していましたが、うら若き幼きマリアが身ごもっているということが明らかになりました。ヨセフの知らない中での出来事ですから驚くのも当然です。しかも現代に照らせば、小学校六年生や中学校二年生ぐらいの年頃に起こったものです。お腹に子を宿すことは、本来は喜ばしい事ですけれども、この時はそうはいきません。ヨセフとマリアの間に重い課題が与えられました。当時のユダヤではマリアが婚約中に他の男性との間に子を授かったということが知られれば、彼女は間違いなく石打の死刑にさせられます。また、ヨセフがマリアとの婚約を破棄すれば、マリアは石打の刑を逃れることができますけれども、母子ともに厳しい差別社会の中へと放り出されます。しかし、ヨセフには堂々とマリアとそのお腹の子を受け入れる心はありません。それでも真面目なヨセフは“婚約解消しかない”と思うばかりです。

ヨセフは特別目立つ人でもなく、ユダヤ人として律法に従っていた人でした。それも小さな町ナザレで大工を営んでいた生活でした。しかし、この時、主の天使がヨセフの夢に現れて告げました。この言葉は救い主をお腹に宿す前に、マリアが、主の天使ガブリエルから告げられた内容と同じでした。ヨセフには夢の中のものでしたから忘れたことにはできたかもしれません。しかし、ヨセフは、この天使の言葉を真剣に受け止めました。そしてマリアを妻として迎え入れ、神の霊によって授かったマリアのお腹の子を、“全ての民を救う者としてイエスと名付けて育てる”、その使命を神から受けました。ヨセフとマリアは夫々に同じ内容を告げられ、驚きや戸惑いの中で幼子を二人で育てる決心をしました。

神の恵みは突然にやってきます。お互いに一緒に暮らすなど思っていなかった存在が天使の言葉を受けて互いに同じ思いを抱いて生きる決心をし、お腹に宿した子を自分の子として、更に天使から告げられた言葉通りに、神の御子として受け入れ、二人で責任を持って育てていく覚悟を決めました。

思い返せば、あの日、あの時に、婚約受け入れていなかったら、お互いに見知らぬ人として別々の人生を過ごしていたことでしょう。また、天使の言葉を、それも同じ言葉を聞くこともなかったでしょう。そうであれば、ヨセフはマリアのお腹に宿した幼子を自分の子として認知することもなく、

マリアも若くして子を授かったためにヨセフと出会わなかったら母子ともに無慈悲で冷酷な社会に追いやられて、悲惨な生涯を過ごす事となったかも知れません。

しかし、そのどれもが、神の御心ではありませんでした。誰もが予想しない時、予想しない場所で、予想しない事態の中にヨセフとマリアは置かれました。しかし、互いの存在を認め合いながら、厳しい現実の世界に生まれてくる幼子を大切に生きてその道を、神から与えられた出来事として真剣に受け止めました。たとえ不安や恐れがあっても、この出来事を神の御心として謙遜に受け止めました。何よりも、この出来事がなかったなら、今、私たちも、この大きな恵みに与ることはなかったこととなります。それは私たちの存在そのものが既に無いことを意味します。神の御心で救い主イエスとしてこの世に来られたからこそ、そして神の御心のままに、この世の罪を赦すため十字架へと向かわれたからこそ、この世に救いがもたらされました。そして私たちはこうして命を受けた幸を覚えて感謝をもってこの日を迎えたのです。

預言者イザヤよって告げられた“イマヌ・エルー神、我々と共にいる”という恵みは、突如としてこの世にもたらされ、まず先にヨセフとマリアに、そしてより真実なものとして羊飼いやベツレヘムの人々へ、そして世界の人々へとこの恵みが広がりました。“神と共におられる”と、天使がヨセフに告げたように、“もう恐れなくて生きていられる”ということです。

確かにこの世で生きて行くときには何かと心配事や不安な思いが湧き起こります。時には押し潰されそうになるほど重く暗い影が付き纏い、生きることがどれほど大変かを思われる問題、課題がそこかしこに多くあります。しかし、その中でヨセフは天使の言葉を受け、心から感謝を以てマリアとお腹の子を受け入れました。私達も同じです。救い主の誕生から2000年を経た今、連日悲惨な出来事の中にあります。だからこそ聖書は告げます。“神は我々と共におられる”。

私たちの明日は、生きるも死ぬも全てが神の御手の中にあり、神が今日も明日も共にいて下さる、ここに救いがあります。希望があります。神の御子イエスは全ての痛み苦しみを経験され、罪をも赦す救い主として、この世に人間の姿を持って来られました。ヨセフとマリアは神の導きから人生を神の救いの御業に託しました。それは一人ひとりの人生が神の救いの御業の顕れる所となり、用いられるということです。暗き世の有様を思いながらも、神の御子が確かにこの世に送られ、今もお神の救いの中にあります。たとえ“こんな自分であっても”と思うところがあっても、また欠けのある自分であっても、神は御手を差し延べてくださる、生きるための課題が多くある、だからこそ、神の恵みを受けて新たに生きる者、新たな一歩を踏み出す者として、『今』は与えられている。どうかこの真実に与るべく、“神我々と共にいます”ゆえに、“我ら神と共にいます”と告白し、心改めてクリスマスの喜びを分かち合い、新たに来る2025年を、感謝を持って迎えたいと願います。

Merry Christmas and Happy New Year.

クリスマスおめでとうございます。良い年を迎えますように。

祈りを献げましょう。

世界の救い主、真の光なる御子イエス・キリストの父なる御神さま。今宵の恵みに感謝致します。

2000年前の大いなる出来事、御子イエスのご降誕を新たに思い返し、救いの御業を悔い改めの心を以て深く受け止めます。

父なる神は遠い昔から預言者を通して恵みの出来事を告げ知らせ、救い主をこの世に送って下さいました。しかしまだ世界は混乱の中にあります。どうか主を信じ礼拝する者が一人でも多く興され、救いの御言葉に希望を以て歩むことができますように。

今この時、礼拝を献げている諸教会を顧み、主に献げる祈りを御心のままに聴き上げて下さい。また、全世界のキリスト教会が夫々の課題の中にありつつ、戦乱や混乱の最中にあっても、御言葉に聞き、祈りを献げる時が与えられますように。来る年に希望の光が差し込みますよう重ねて願います。

主の御栄光を見上げつつ、尊き救い主なる御子イエス・キリストの聖名によって御前に献げ致します。アーメン。

讚美歌 265 『天なる神には』

献金

感謝の祈り(司式者)

イエスキリストの父なる神様、聖名を崇め賛美致します。主の御子の御降誕の光の内に、私どもはここに集められ、皆と共に時間を持つことを感謝致します。私どもの生きることには、様々な苦しみと悲しみがありますが、そのような苦しみ、悲しみを癒やし、力づけて戴いております。深く感謝申し上げます。

世界には、なお激しい戦争が終わらず、そして、年々過酷さを増してくる天災によって何度も苦しめられている方が沢山いらっしゃいます。この地に戦^{いくさ}の終わりが来、そして平和が訪れますように。御子の生誕の光によって照らされますように。私どもが希望と確信を以って、その平和の回復を待ち続けることができますように。そしてできることなら、力を尽くして、そこに寄与することができますように、私どもを強めてくださいませ。

私どもは神様から沢山の物を与えられています。そのほんの僅かな物を、今日献金によってお返しして教会の御用に用いていただきたいと願っております。どうぞ教会の御用のためにお使ください。

それでは最後に、主が教えて下さいました『主の祈り』を共に祈って終わりたいと思います。主の祈り(讚美歌 93-5A)

讚美歌 261 『もろびとこぞりて』

祝福 願わくはこの世を救い、真の命をもたらし給う主イエス・キリストの恵み、慈愛に富み給う父なる神の愛、汚れを清め、御力を伴い給う聖霊の親しき交わりが、あなた方一同とともに、今も後も永遠にあるように。アーメン。

後奏 『汝の上に喜びあれ』(J.S. バッハ)

主任牧師挨拶(略)